



愛隣幼稚園.....

園だより

.....15. 3月号

はなむけは“根っこ”

暖かい風が吹きました。春はもうそこまで、ゆめ組の仲間たちの卒業も目前です。ホールへの階段を上がっていくとそこには不思議なエレベーター。「チン！」とベルが鳴り、扉が開くと『わくわくどりーむらんど』。ゆめ組の仲間たちが自ら創り出し、あそびこんで過ごした3週間が詰め込まれた空間は、子どもたちの思いとエネルギーで溢れていて、改めて子どもの持つ力の大きさを確認させられました。「動き出さずにはいられない、興味をもったことをやってみたい、表現したい。」子どもたちには生来このような欲求があるのです。子どもが遊ぶ姿は、正にその現れです。この姿を子どものあるべき姿と認め保障し、そこに適切な支援を加えることで、あそびは大人の想像を越えたものになり、あそびの中でこそ子どもたちは成長していきます。水族館にはここにしかない魚たちがいて、訪れる人たちを楽しませてくれました。ロボットたちの劇は運動会の時よりグレードアップした演技力、ゆめスーパーには人気商品が並び、たくさんのお客が列を作りました。ミラクルシスターズの見事なマジック、やさしい警察の訓練ショー、幼稚園中のみんなに楽しい気持ち分けてくれました。朝、目覚めて今日の幼稚園に期待し、心に計画をもってやってくる子どもたちは、急ぎ足です。門を入るとそのままの勢いでまっすぐに部屋に向かっていきます。今日の生活にははっきりとした目標があり、目は生き生きと輝いています。自ら取り組む活動に子どもたちは集中し、どっかりと腰を据え、試行錯誤も繰り返します。夢中になる子どもの背中から、目には見えない精神の充実、満足を感じます。子どもたちは知っています。この気持ちはひとりでは味わえない。仲間をいいと感じ、仲間と共に創り上げるあそびや生活があってこそ、この満足が味わえるのです。入園から今日までの日々が常に順調であった子はひとりもいません。一步が踏み出せない、思いが通じ合わない、素直になれない・・・たくさんの葛藤がありました。でも、その時々仲間がいて、「君はいい！」と言ってくれました。あなたはいい、あなたが好き、ただそれだけで子どもたちに一步を踏み出す力が生まれます。自分はいいい、という自信は次にまた、「君はいい！」と仲間を支える力になっていきます。共に支え合い、認め合って、ひとり一人が力を発揮する集団になるまでに、長い時間とエネルギーが必要でした。だからこそ、今この仲間の中で得られる達成感は大きいのです。

さて、こんなに子どもたちの愛隣生活は充実して、最後の時にたくさんの収穫をいただこうとしています。しかし、その収穫物は「〇〇が出来るようになりました。」という目に見えるものは何もないかもしれません。しかし、私たちはお家の方々と共に、子どもたちの見えない根っこを育てることに力を注ぎできました。2月号でも引用させていただいた倉橋惣三の言葉を今年度最後の園だよりもご紹介させていただきます。これは70年以上も前の倉橋の言葉です。『教育はしばしば余りに多きを求める。葉を求め、花を求め、果実を求める。換言すれば結果を求める。しかも就学前は、未だ結果を求むべき時期ではない。結果は遠きにある。しかも自然にまつ。今はただひたすらに根の力を養うべきである。』さらに倉橋は根の力について『無限の元気であり、多面の興味であり、不断の試行力であり、しかして、年齢に相應せる適度の自己統制とである。』と言っています。就学後の多くの子どもたちに現れる問題は、まさにこの根の力にあるのではないかと気付かされる言葉です。

今年も愛隣幼稚園の卒業のはなむけは見えない“根っこ”にさせていただきたいと思います。まだ伸び盛りの“根っこ”ですから、ここを離れてしばしの時は十分養生させてください。そののち再び丹精込めて育てていただければ芽は伸び幹は太り枝を広げ葉を茂らせ、美しい花が咲き、豊かな実を結ぶと祈り、信じて送り出します。